説教余滴 2019 年 7 月 21 日『朝が明け、鳥歌い』

前主日は、東湘南地区音楽祭が、横須賀学院チャペルで開かれました。会場を提供してくださった学院には感謝します。また綿密に準備してくださった、担当委員の皆様に感謝いたします。佐藤先生のメッセージで開会礼拝が行われ始められました。6 番目に登場したのは野比教会。山田篤子さんの指揮で『朝が明け、鳥歌い』という美しい歌が披露されました。この歌、讃美歌 444 番に関する思い出を書いておきましょう。

1983 年 9 月 1 日に大韓航空のボーイング 747 が、ソビエト連邦の領空を侵犯したために、ソ連防空軍[1] の戦闘機により撃墜された事件。乗員・乗客合わせて 269 人全員が死亡した。大韓航空機撃墜事件と呼ばれます。

この年 8 月末に御殿場から岩槻に転任しています。直ちに幼稚園の業務に取り組み始めています。たいへん忙しい中で起きた事件でした。知人・友人が乗っているわけもなく、遠い事件でした。その数年前、大韓航空機で米国まで旅行していました。帰りの機中で、美しい音楽が流されました。乗務員に尋ねました。「これは、韓国ではよく聞きます。でも何も知りません。」歌詞はついていなかった。ない。よく聞かれている。讃美歌かもしれないなあ。帰宅してから讃美歌を取り出し順に見てゆきました。楽譜はよく読めないけれど、444 番、これだ、と感じました。
「よのはじめ　さながらに、あさ日てり　鳥うたう、
　みことばに　わきいずる　きよきさち　つきせじ。」
3 節まであります。

楽譜の上には、昔のガリヤの旋律、とあります。ガリヤは、現在のスペインからフランスなど広くヨーロッパ全体に生活していた古代民族ケルトです。戦争に強い民族に敗れ、駆逐され、現代アイルランドで平和な伝統を守る生活を続けています。

撃墜された大韓航空機の中でもこの旋律が流れたに違いない、と感じ、それ以来 444 番はこの大韓機に乗り合わせた人たちを偲ぶ歌となりました。